

# N.S.P 青春のかけがえ

N.S.Pベストアルバム青春のかけがえソング・ブック



冬の花火はおもいで花火／漁り火／夕暮れ時はさびしそう／五月雨あみだり／八月の空へ翔べ／おもいで／北北東の風／ゆうやけ／お茶の一服／あなたこっちを振り向いて／春をみつけた／八十八夜／雨は似合わない／歌は世につれ／シャツのほころび涙のかけら／白い椅子の陰／君と歩いてみたくて／弥生つめたい風／あせ／砂浜／さくら草(雪どけ水はつめたくて)／赤い糸の伝説／恋は水色涙色／温度計の憂うつ／17才の詩／誰かが落した悲しみを／あの夜と同じように／さようなら







# 冬は部屋の中でレコードを聴くのに

## ぴったりな季節だ

●天野 滋

季節はめぐる、カレンダーをめくってもめくらなくとも、秋になると、葉が色づいて風の中を落ちて行って、息が白くなったかと思うと、やがて、白い雪が落ちてくるのです。

N.S.Pで、東京に出てきてから、5回目の冬。ぼくたちは、ベスト・アルバムを出します。

ベスト・アルバムなんて、前は、あんまり作りたくなかったのです。前々から話はあったのですが、人がベスト・アルバムを作ってるのみると“ア、ソロソロ”って感じで、新しいオリジナルを作れないから、ベスト・ア



ルバムを出すのだろうか、もう終わったよ、と思ったりして、出しにくかった。

だから、ぼくたちが、出すと決まった時にも、半分おっかなかったけど、LPも10枚になったし、そろそろまとめて、一区切つけて、次へのステップを作らないと、収拾がつかなくなるという気持ちもあって、出すことに決めたのです。

いざ選曲する時になって、たくさんあってどれにしようか、どうしようかと迷い始めたら答えがでない。入りたい曲を選んでいたらLP4枚組。そんなにたくさんのお小遣い使ってくれるかなと思って、選んだのが、この28曲。お徳用って感じ。曲数もたくさんあるし、聴くの大変だけど、根づめて聴いてほしくない。ひまな時、本でも読みながら、レコード聴く。レコード聴きながら、何かする。BGとして聴いて下さい。ぼくのレコードの聴き方もそうだからね。

6年間の月日は、恋人たちにとっては長すぎた春。ぼくたちにとっても、いろんなことを覚えさせてくれた月日でした。

最初の1～2年は、ただめまぐるしいだけ。来る日も来る日も、学生っぽかったぼくたちには、身構える余裕もないことばかり。次の1年は、前の2年の反動で、気持ちも、揺れ動いていた年。ケンカもできないくらいに忙しくて、3人が、必死になって身を寄せあって、確かめあう、仲良くやらないと、お互いが倒れてしまうという状態だったのです。その前に、学生時代の友人として、つきあった時間が5年くらいあって、そこで、わかりあえていたから、やり通せたのでしょうか。そうでなかったら、とうに、ボロボロになって疲れ果てて、もう、やめた、ということになっていたようです。毎年のように、もうやめようよ、と弱気になるくらい、先のことがメドたらずに、おっかなびっくり。スケジュール表ばかりがまっかっかで、ぼくたちは真っ青。いやになった時もありました。

この2年です。秋と春だけコンサートをやって、夏と冬は休みという季節に合わせたローテーションが決まって、救われたみたい。落着いて考えることもできるし、急に大人になっていってるみたいです。どこがそうだったか分析しにくいけど、前は、いやなことがあるとツイと横向いて、やだよおって言ってたことも、今は、一歩下がって考えて、それじゃこうしようかと考える余裕が出てきたのです。それも、きっと、他の2人の影響で丸

くなったからでしょう。

今の状態で何よりも良いのは、コンサートとレコーディングの周期が合ってること。休みの間に、曲を作って、新しい曲をステージでやりたいな、と思い始めた頃にコンサートがある。コンサートが一段落して、曲作りをしたいと思う時に休みが来る。両方とも楽しめるのです。ようやくプロになれた。今やっていることを見極める意欲が湧いています。

＊

ただ、残念だなと思うのは、一生懸命やってる割には、まわりの人たちから、もうひとつの知名度が足りないな、と思われたりすること。

ぼくたちと同じ頃にやっていたグループが、大ヒットを出して、解散した今でも、みんなの記憶に残っているのに比べると、ちょっともうひとつ。

特別大きなコンサート会場でやろうとか思っていないし、千人が2千人になったのが、ぼくたちの喜びでもあるのです。1万人の会場は、ぼくたちには似合わない。仲良く、長くやっていくには、いい曲をたくさん作ることだけだろうな。

＊

そういえば、去年の12月LP 100万枚突破のごほうびで、ヨーロッパに行かせてもらったのです。モチロン、全員一緒。でも、早く帰りたくって仕方がなかった。行く時は前の晩にグッスリ眠れたのに、明日帰るという日には遠足に行く前の晩みたいに興奮して眠れず、それが、また一日延びて、空港近くのホテルに泊めさせられた時など、つらくてさみしくて、友人に国際電話をかけて、“帰れなくてサア”と、元気がない声を出していたのです。

ヨーロッパで面白かったのは、美術館。それまで絵を見て感動したことなどなかったのに、嫌いだった絵を見て、もう少し勉強して絵でも描けたら楽しいだろうと思ったりしたり。でも、やはり、家において、レコード聴いたり、録音したりしている方が自分の性にあってるのだろうなって、ヨーロッパへ行ってあらためて、自分の性格を知った感じ。そうやって、少しでも刺激を受けることで、プラスになれば、と思うのです。

N.S.P 6年目。刺激がなくなるのが、おっかない。ヨーロッパにまで行かないと、刺激を感じなくなってしまうなんていうのは嫌だ。ヌルマ湯につかるみたいにフヌケになったりするのはいやめたいな。リハーサルでも、レ

コーディングでも、アレンジでも時間のかかることばかりだから、休みの多い割には、けっこうクルクルとめまぐるしい。でも、これが刺激だと思えなくなる程に馴れてしまうのだけはよそうと思うのです。曲作りのコツも覚えてきたようだし。でも手馴れたくない。曲を作るたびに新鮮な気持ちでいたい。音楽から刺激をうけなくなったらどうなるのかな。おっかない。今は、各コンサートの会場や、レパトリーや感じたことを覚えてるくらいに、まだまだ新鮮。大丈夫です。

ぼくたちは、性格的に心配症。一生懸命に何かをやっていないと、自分を見失いそうだから、そんなに、ヌルマ湯につかることはないと思うのです。

＊

東京に出て来て、しばらくの間は、一の関に帰ることばかり考えていた。冬になると、一の関の、ぼくらの学校からながめる雪の山々のことを、春になると、雪どけ水や、ぼくの家裏山の桜並木を、夏になると、まぶしい緑の田んぼを、秋になると、紅葉の舞う校庭を思いだしては、帰りたいと思っていたのです。

でも、今は、一の関の景色というのは、心の中にしまっている。それでも、たまに田舎に帰ると、忘れかけていた季節がふとよみがえってくるのです。

この前の岩手のコンサートは、雨。友人の1人が“今年もひとあめごとに、寒さがきびしくなる”とポツンとつぶやいた言葉に、あ、そうなんだなあ、と、ついしみじみしてしまったのです。

そんな季節の変わり目に僕たちのアルバムを聴いてみてください。



# ぼくたち3人は音楽だけで結びついた のではないそこには友情があったのだ

●中村貴之



友人って素晴らしいものだと思う。なんて書くと、いかにも、どこかの青春ドラマみたいで照れるけれど、今、本当に、そう思っている。

まだ、ニキビが残っている10代の少年たち3人が、どうして、5年後に、自分たちのレコードが、10枚以上も出て、ベスト・アルバムを組む、なんて考えられただろう。東北の一学校の、ほんの音楽好きの3人だったというぼくたちが。下宿の窓際で、見ようみまねで、ギターの練習をしては、学校で、覚えた曲の自慢話をしてみたり、文化祭で、他のグループに負けまいと、練習しあっていたりしていたことも、つい、昨日のようだ。

N.S.Pの5年間、そして、その前の学生時代。ぼくには、音楽抜きでは考えられない。ということは、N.S.P抜きには考えられないということだ。自分の悩みやら、感動やら、苛立ちやら、自分の生きざまが、すべて、そこにある。そして、ニキビ面の少年が、それなりに、結婚もして、12月に子供が生まれるまでになった成長の過程が、すべて、そこにスッポリと入ってしまう。

2百本以上の年間コンサートをこなしていた時は、1年で10キロもやせた。初めて行った旅先の楽屋で、肩も上げられない程に疲れて、マネージャーに、肩をもんでもらっていたこともあった。

4年目のことだ。ようやく、年間2百本という地獄のコンサート・スケジュールが一段落して、年間120本くらいに減り、3カ月間の休みができたことがあった。その間、各々、好きなことをやって過ごそうと、張切って休みに突入したものの、3日目くらいで、天野君から電話があって“何してるの？”“今晚メシどうするの？”と

なり、平賀君は実家に帰っていたが、ぼくは、天野君と、3カ月のうち、2カ月は一緒にいたりした。

たとえばアリスなどは、仕事面での活動と私生活のつきあいは、全く別だという話をよく耳にする。旅先でも、3人一緒に行動することはほとんどないと。ぼくらは正反対です。旅先でも、いつも一緒、音楽を離れても一緒になってしまう。

多分、他のグループの多くが音楽をやるためだけに集った集団だからだと思う。ぼくらはそうじゃない。音楽以外の、あらゆることで話し合い、悩み合い、相談して影響し合ってきたのだから。10代の一番多感な時から共に変わってきた家族みたいなものになってしまっている。

自分がうるおうのも、N.S.Pがうるおうから、自分たちが、うるおう。何を考えるのもN.S.Pを通して考えるようになった。

でも、ベスト・アルバムを作るので、昔の曲を聴きながら、“ずい分、たくさんの曲をやった”と実感した。初期の頃の曲には、若さがほとぼしっているようだ。天野君の詩も感情がそのまま出ていて、作り物じゃない、青春とか、若いという感受性の鋭さが光っていた。音にしても、コード進行を云々する前に、出したい音を出しているようだった。それに比べると、今は、ずい分、理論的に作っている。レコーディングの方法もわかってきたし、それは、どちらが良いとは、一口では言い切れないだろうが。

\*

もし、1曲だけ、あげるとしたら、やはり“さようなら”になりそうだ。アマチュアの頃から入ると、もう6年以上歌っている。この曲をはずしてやったコンサートは、1回くらいではないだろうか。それでも、飽きていないのだから、全員が、欠かせない曲として愛着を持っているのだろう。

ベスト・アルバムには、入らなかったけれど、ぼくは、ロックに走った時期が、N.S.Pの流れの中では面白い時期だったと思う。アコースティックで始めてきたぼくらが一時、ずーっとロックに傾いていった。その中で、今のサウンドができていくのだから。5年間、やはり、お互い、変わりながら、迷いながら成長してきたのだ。

1本の広い道がある。多少の間隔を置きながら3人が歩いている。足並みは揃っている。N.S.Pという広い道を、3人が歩いている。音楽と友情というきずなで結ばれながら。

# 昔は無欲で音楽をやっていた でも最近欲が出てきた

●平賀和人

ここまでやって来れるなんて思ってもいませんでした。正直な話です。学生時代に、LPを1枚、シングルを2枚出した時には、スケジュールはきついし、天野君の詩や曲もなかなかできなくて、セカンドで終わりだな、といつも言いあっていたものです。

音楽が好き——。3人を支えていたのは、それだけだったような気がします。年間2百本のコンサートをこなしてきました。考える余裕なんてない。春も秋もない、ただ、全国のコンサート会場をまわるだけで、月日が過ぎ、季節が過ぎ、カレンダーは、スケジュールの鬼となって、ぼくらに迫り、ぼくらは、その鬼を退治するために、カレンダーをめくっていく。

嘘みたいです。初めて、芝の郵便貯金ホールでやったワンマン・コンサートで、天野君が感きわまって、ステージで泣いたことなど。みんなアガリまくって、ラストの“さようなら”で、天野君が突然歌えなくなって、ステージのソデに駆け込んで、ぼくらは、“あいつ泣いてる”って、ジンと来たことなど。

アマチュアでした。コンサートにしても、自分たちさえノレれば良いと思っていた。話と関係のない曲がいきなり流れだしたり、お客の少ない所では、露骨にやる気のなさが出てしまったり、あの頃聴いてくれたファンのことを考えると、ゾッとする半面、心の中で手を合わせたいような感謝の気持ちで一杯です。

あの頃、いろんなグループとジョイントしました。ふきのとう、アリス、山本コータローといった人たち。アリスの谷村さんの話術には当時、感心した記憶もあります。グレープ、かぐや姫といった、ぼくらと同じ頃にステージに立っていたグループは、もう今はありません。5年間。短かいようで長かったのでしょうか。今、ぼくらは、それなりにプロのつもりでいます。アマチュアっぽかったぼくらが、今、こうしているのも、あの頃、夢中でそんなステージをやったからでしょう。今はファンをとられるのは口惜しい。何十カ所で同じ曲をやっても、ぼくらの気持ちとは関係なく、精一杯ステージをやることができるようになったのも、あの頃があったせいでしょう。

どうして、ここまで来れたのか、ふっと考えることがあります。ぼくの奥さんは、今でも“早く、やめて”と言って、ぼくを困らせたり、喜ばせたりします。でも、ここまで、メンバーどうしのトラブルもなくやれたのは、きっと、ぼくら3人のメンバー、そして、ぼくの場合は、奥さんも含めて、高校時代からの結びつきが一番大きい



と思っています。人間的つきあい。お互いの性格は、もう、わかりすぎる程わかっています。音楽以前のわかりあい方。それが逆に音楽を作っていくという良い形が生まれているのでしょう。

天野君も、昔ほどは、感情ムキだしではなくなりました。ぼくは神経質で、一見ノヘーっとした丸味のある中村君。3人とも、N.S.P.をやる中で、それなりに変わってきました。それも、お互いが認めあえる形で。他のグループが、よく、コンサートが終わってからとか、音楽をやる以外は別々だというけど、考えられません。ぼくらは、ヒマな時でも、少し会わないと、すぐに心配になって、電話で声を聞きたくなる、というくらいですから。

意欲が出てきた。もう、デビューした頃の“来年やめる？”という会話は無い。もう一度ベースの先生について、本気で勉強してみようと思ったりするのです。昔の曲を聴くと、ふと恥ずかしくなったりします。ぼくの好きなのは“汗”“ちょうちょ”“さようなら”といった曲。でも、昔の“ちょうちょ”にしてもリード・ギターみたいなベースを弾いていたりするのだから。あの頃のようにやれといってもやれない。それは、幼すぎたという意味で、良くも悪くも。

ぼくらが手がけてきた歌というのは、ぼくらの子供みたいなものです。そして、ぼくの子供も、11月15日で2才になります。七五三の着る物をどうしようかと考えてみたり、お嫁に行くことを考えてみたり。そんなこと思いながら、カセットに入れたぼくらの曲を聴かせながら、音楽の好きな子になってくれれば良い、と思ったりするのです。

# N.S.P徹底研究

## PART①

# N.S.Pの魅力…それは“あたたかさ”

富澤一誠



## 郷愁をそそる言葉と叙情的な メロディーこそN.S.Pの音楽

N.S.Pは1973年6月に「さようなら」でデビューして以来、この5年間に11枚のアルバムを発売し、そのトータル・セールスが100万枚を突破し、今なお売れ続けている。一口に100万枚というが、これは並大抵の数字ではない。というのは、ふつうアルバムの場合、1万枚売れば成功で、3万を超えたら大成功とされているからだ。そんな状況にあって、N.S.Pの場合は、1枚平均10万枚は手がたく売れる。10万枚といえば大“大成功”といわなければならぬ。

だが、売れているわりにはN.S.Pは地味な存在である。ジャーナリスティックな意味において、ほとんど話題になることはない。ただ黙々とアルバムを出し、年間100本余りのコンサートを消化しているだけだ。解散してしまったかぐや姫やアリスのように、大会場でビッグ・イベントをやるわけでもなく、南こうせつ、谷村新司などグループを代表する“顔”もない。それなのに、なぜN.S.Pは確固たる人気を保ち続けているのだろうか？

それはおそらく、N.S.PがN.S.P自身の魅力を最も理解していて、それを上手く表現しているからだと思う。

ご存じのように、N.S.Pの名前がポピュラーになったのは、'74年に大ヒットした「夕暮れ時はさびしそう」という曲でだった。ぼくはこの曲こそ、最もN.S.Pらしいものと思っている。

この曲の素晴らしいところは、“田舎の堤防”“夕焼け雲”“河原”“虫”などというどこかに郷愁をそそる言葉を巧みに配列し、叙情的なメロディーをつけ、天野滋が独特の節まわしてたたみこむようにうたうところにある。彼らの作るメロディーは、決してなめらかなきれいなものではない。逆にギクシャクしているといってもいいくらいのものだが、不思議と天野がうたい平賀和人、中村貴之がハーモニーをつけると、よくなってしまふ。なんともいえないほど、素朴で、郷愁を誘い、あたたかさを感じさせるところがあって、たまらないほどいいのだ。この“あたたかさ”がN.S.Pの歌の最大の魅力だと、ぼくは思っている。

## 叙情派フォークの旗手、N.S.P

天野、平賀、中村の3人は共に岩手県出身で、彼らがN.S.Pを結成したのは、彼らが一の関の高等工業専門学校に行っていたときだった。彼らはプロになって上京するまでの20年近くは、岩手県の故郷にいらしていた。そんな彼らにとっては、“田舎の堤防”も“夕焼け雲”も“河原”も“虫”もいつも身近にあったものに相違ない。そんな身近にあったものをすんなりと取り入れ歌にしようとしたところに、彼らの人柄が出た。そして、その人柄、田舎者に共通したおっとりとしたあたたかさが、聴く者の琴線を打ち震わせ、大いに支持されたのだろう。「夕暮れ時はさびしそう」には、たしかにN.S.Pでなければ出せない“オリジナリティ”があった。そのオリジナリティこそ、郷愁をただよわせた“あたたかさ”である。

だからこそ、「夕暮れ時はさびしそう」が'74年に大ヒットしたとき、ぼくはN.S.Pを高く評価したものだ。かぐや姫、グレープと並ぶ“叙情派フォーク”の旗手として扱い、いたるところに書いたことを覚えている。まったく、その当時のN.S.Pの活躍ぶりはすさまじかった。

ところが、そんなN.S.Pも「2年目の扉」あたりからだろうか？ 突然、サウンド志向になってしまった。このときばかりは、ぼくはどうしようもないと思ったものだ。彼らがなぜあえてサウンド志向に走ったか、わからないでもなかったが、正直言って、そのときは彼らは本質を見失っていると思った。アーティストは、誰でも初めはギター1本で演奏していても、そのうちに余裕がで



きてくるとバックのサウンドを厚くしてやってみたくなるものだ。おそらく、彼らの場合も、「夕暮れ時はさびしそう」が大ヒットして、人気も安定したからこそ、ふっと気のゆるみが出て、アマチュア時代にやりたいと思っていたサウンドを作ってみたいと思ったのだろう。そういえば、天野などはアマチュア時代はフォークというよりロック・バンドを作って活躍していたくらいだ。そのときのことがふっと思い出され、一気にエレキ・ギターを持ってサウンド志向に走ってしまった。そうぼくには思える。

しかし、結果的には、サウンド志向になったことはあきらかに失敗だった。なぜなら、彼らの最もいい本質の“あたたかさ”がエレキ・サウンドにかき消され、どこかへ吹っ飛んでしまったからだ。それに加えて、詞もあまり良くなかった。彼ら独特の郷愁を誘う言葉が失われて、抽象的になってしまい、そのため“オリジナリティ”が大幅に欠けてしまった。

「やっぱり、なかなかストレートな感情ばかり出せない。ぼくも、いい年になったし……。昔だったら、君が好きだ、それですべて、その世界は言い尽くせた。ところが最近、君が好きだに、プラスαがいるわけですよ。そうになると、ああでもない、こうでもないという言い方になる」

アルバム「ホワイト」を出したとき、「詞が抽象的だが」という問いに対し、陽水はそう語っていたが、陽水の場合は、おそらく「言葉の限界」というものを悟ったからこそ抽象的になったのだと思われる。これまでは言葉ですべてが言い表わせると思っていたものが、どうしても言い表わせないものがあると知ったとき、その作風が変わった。だが、N.S.Pの場合はそうではないと思わずにはいられない。あの当時、N.S.Pがもしもそんなことを考えていたなら、天才か馬鹿か狂人と思えるから。そう考えたとき、ふっと魔がさしたといった方が適切だろう。

これまで、サウンド志向に走ったがために、失速してしまった、たくさんアーティストをぼくは知っている。彼らは一様に、ある程度売れて、安定したとき、例外なく、それまでの作風を捨てサウンド志向に走った。ある者は「新しい境地を切り拓くため」といい、また、ある者は「これからはサウンドの方こそ大切」だといい、それぞれ飛び立っていった。しかしながら、彼らのいずれもが、それまでのファンの支持を受けることができなくて、離陸したまでは良かったのだが、あまりにも性急に飛び立ったがゆえに、失速してしまい墜落してしまった。

N.S.Pも一時は失速しかかったこともあった。だが、彼らは自分たちで軌道を修正して、また、叙情派フォーク路線に戻った。ここ1、2年、彼らはスタートした直後の雰囲気レコードを作り、コンサート活動を続けて来た。その甲斐があったのか、ここ1、2年で彼らの株はすっかり安定した。アルバムは出せば必ず10万枚ほどは売れ、コンサートも春と秋、2回のコンサート・ツアーはどこへ行っても満員の大盛況だ。

それに伴ない、彼らが作る歌にも、さらにみがかれた“オリジナリティ”が生まれて来た。「夕暮れ時はさびしそう」でみせた“あたたかさ”に加え、ハーモニーも上手くなり、さらに味つけができるようになったので、雰囲気が増して来た。それは新曲「冬の花火はおもいで花火」を聴くと、一聴瞭然である。あいかわらずたみかけるような節まわしが効果的で、そこに追い打ちをかけるようにコーラスがかぶさってくる。そうすると、いつの間にか、その世界に聴き手は引きずり込まれてしまう。

## デビュー5年、 これから10年先を目ざせ、N.S.P

今のN.S.Pを聴いていると、かつて「夕暮れ時はさびしそう」で大ジャンプをした勢いが、またついているように思う。ここ3年あまりはきっとバネをたくわえる時期だったのだろう。考えてみれば、自力で軌道修正をするということは大変なことだ。アーティストは例外なく、みんな個性が強い。個性が強いからこそ、自分がナンバーワンだと思ひ、自分の作ったものは盲目的にいいと思ひ込んでしまう。その意味では、アーティストほど視野の狭い者はいない。

だが、そうでなければ、この激動の音楽界は生きてはゆけないのだが……。

そんななかで、N.S.Pが自分自身を鋭く見つめ、自分たちの“良さ”はどこにあるのかを見抜き、そこに焦点を合わせ、それを大きくしようと努力して来たことは特筆される。今、その努力が、強いバネとなり、大きくはじけようとしている。

一般的に現在のN.S.Pをみた場合は、おそらく、あいかわらずチンタラとコンサート活動をやっているなど感じるに違いない。N.S.Pは決して大言壮語をしないし、ハデな動きをしないから、そう思われてもしかたのないことだが、ここ数年間のN.S.Pを大きな目でみた場合は話は違って来る。彼らは、自らのバネに非常に大きな“たくわえ”をしている。そのたくわえは、ここに来て限界点に達しようとしているくらいだ。ぼくにはそう思える。

その点において、彼らはこれからが期待できそうだ。

今や一世を風びした叙情派フォークの雄、かぐや姫もグレイブも解散してしまっていない。風は「海風」「ムーニー・ナイト」というアルバムでサウンド志向に走ってしまい、ふきのとう、とんぼも今ひとつパツとしない。だが、叙情派フォークは、ずっと日本の若者の良心をとらえて離さないで来た。その灯を消していいはずがない。

N.S.Pの魅力は、どことなく郷愁を誘う“あたたかさ”に尽きる。そのことをしっかりと肝に銘じていれば、N.S.Pはまだまだ健在だと思う。

まだ、たかが5年だ。これからは10年をめざして頑張るって欲しいものだ。何事も落ち着いてしまったら終りだ。常に前進して欲しい。そう思わずにはいられない。

# N.S.Pの魅力を語る



### ●世良公則

#### あの頃、覚えたての ギターで歌っていた

いまにしておもえば、“やけに真  
白な雪がフワフワ”とか“君も僕も、  
コンクリートに……”などを覚えた  
てのギターでかき鳴していた時期が  
あった。まだ人前で自分の歌を歌う  
なんて夢にも思っていなかった頃だ。  
ただなにかばく然としたら立ちの  
中に、彼らの音楽が奇妙にストレ  
ートに入って来たのを、いまでもき  
のうのように覚えているのだ。

いま、オレは音楽という世界の中  
で生きている。オレのリングはここ  
だとさえ考えている。しかし、この  
先輩たちはまたオレに教えてくれた。  
入れ代りのはげしいこの世界で、確  
実に、しかも安定したすばらしさを  
保ち続けるひたむきな男達の足音を、  
だ。オレもこれほど息長く音楽がや  
れたなら……そう思う。

N.S.Pは、いまでも心の中にあの  
時と同じように生きている。彼らは、  
すばらしいミュージシャン達なのだ。



### ●八神純子

#### ふる里の風が吹く ステージ

私が初めてN.S.Pに出会ったのは、  
5年程前のつま恋のステージ、N.S.P  
はゲストで私は出場者でした。

何やらいつものジーンズ姿で気ま  
まに出て来て、ツブツブのしょっぱ  
い汗……などという不思議な歌を歌  
ってくれました。いま、不思議とい  
ったのは、一度聴いただけで誰でも  
覚えてしまうからです。フレーズだ  
けでなく、あの情景とあたたかさま  
でも一緒に。N.S.Pの出身は“北国”  
です。彼らが歌うと会場に彼らの土  
地の風が吹いて、生まれ育ったふる  
里のあたたかさまでもが、ストレ  
ートに伝わってくるのです。私が音楽  
をやるうえで、もっとも大切に思う  
のは、自分のいままで生きてきた年  
月をベースに、無理なくプレイする  
ことなのですが、それを自然に出せ  
るのがN.S.Pではないかと、ステー  
ジをみるたびに、ステージから降り  
た素顔をみるたびに思うのです。



## ●チャー

### オレは、コイツラが大好きなんだ

なんと言っても、春夏秋冬を素直に、シンプルにやってくれるのがN.S.P.だと思うんだ。彼らには、季節のさまざまな色がある——音楽で色を感じさせてくれるミュージシャンを最近日本であまりみないが、N.S.P.はサウンドの中、詩の中、そして一人一人の人間、生き方に、何かと〜でも気持の良い色を感じさせる。

どんな人でも、生きている限りその人の持っている個性が、その人のカラーになるんじゃないかな……。近頃、変にカッコイイ奴が多くて、その人間のほんとうの個性をみつけ出すのが、ちょっと難しいと思う。でも、N.S.P.の三人ときたら、まったくみたとおり、想像したとおりの人達で「アア、人間というのはこうじゃなけりや……」なんて考えさせられちゃう。日本人なら誰でも心が和むんじゃないかな——俺は、コイツラが大好きなんだ。



## ●福島邦子

### さらに新鮮なサウンドを期待しています

初めてN.S.P.に会ったのは、私がまだアマチュアで、ポップコンの東海大会に出場した時でした。非常にわかりやすい詞とメロディーにとっても好感が持てました。その後2〜3度天野さんをはじめとするメンバーにお会いすることがありましたが、N.S.P.の歌のイメージそのままといった感じでした。私の友達にも彼らのファンが多いのですが、もっともな感じがしたものです。

N.S.P.の魅力は、なんといっても素朴でしめったところがないことだと思います。デビュー当初から、すでに自分たちのN.S.P.サウンドというものを確立していて、それを現在まで持続させているなんて、なんてすばらしいことでしょう。私のいちばん好きな曲は、「あせ」です。詞も曲も歌もすごく気に入っています。そして、最近の「八月の空へ翔べ」。新鮮なサウンドを期待しています。



## ●佐々木幸男

### 出身が同じだと似てしまうのかな

実際のところ、僕はN.S.P.と会って話をしたり、一緒に仕事をするチャンスがまだないのですが、人みしりするというのか、大人しくめだたない点は僕と同じだな、なんてつねづね思っているのです。きっと出身地が彼らと同じ北国なので、なんとなく似ているのかもしれませんが。

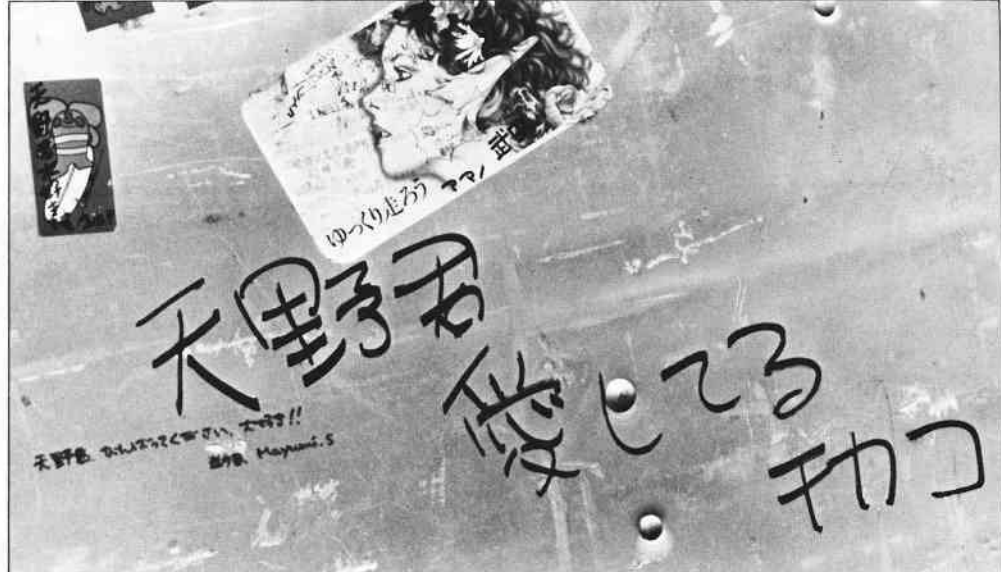
N.S.P.のチームワークのよさは、とてもうらやましいと思います。きっと3人の人がからかなのでしょいか。N.S.P.の音づくりにもそれが表わされていて、とてもバランスのとれたグループだと感心しています。“素朴”“やさしさ”といった言葉がそのままN.S.P.にあてはまるんじゃないだろうかと思っています。N.S.P.はこれからもきっとチームワークで、N.S.P.サウンドを聴かせてくれるでしょう。3人3様の味のあるグループに、さらに飛躍することを期待しています。





ロー!!! 2002年のN.S.P.の活動はもう「ほろほろ」の思い出のみに残りましたか? 忘れられない思い出はいつを最後に思い出? 思い出のコンサートはどのくらい思い出? 思い出の思い出...

思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...



みなさんこんにちは! 新年あけましておめでとう! N.S.P.の活動はもう「ほろほろ」の思い出のみに残りましたか? 忘れられない思い出はいつを最後に思い出? 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...

2002年のN.S.P.の活動はもう「ほろほろ」の思い出のみに残りましたか? 忘れられない思い出はいつを最後に思い出? 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...



N.S.P.の活動はもう「ほろほろ」の思い出のみに残りましたか? 忘れられない思い出はいつを最後に思い出? 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...



めさりに寒く感じましたか? 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...

2002年のN.S.P.の活動はもう「ほろほろ」の思い出のみに残りましたか? 忘れられない思い出はいつを最後に思い出? 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出... 思い出の思い出...

# 天野 滋が語る

## 曲づくりのエピソードと演奏のポイント

N. S. Pがデビューしてから、はや6年。数多くのコンサートやレコーディング、そして曲づくりとあつという間の出来事のように。いろいろな場所で話したり、歌ったりした僕たちの青春のかけらを、レコードの小さな溝の中から拾い集めたのが、今回の初のベスト・アルバム「青春のかけら達」です。この2枚のLPをキッカケにして、もっと新しく、もっとしっかりした曲づくりをつづけて行こうと、いま、ちょっぴり真剣に考えているところなのです。

そこで、このLPについて僕なりの思い出やエピソード、こんなふうには弾いてみたらいいんじゃないかな、といったことを、わりと気軽に書いてみようと思います。それぞれの楽譜にある『演奏のポイント』といっしょに読んでみてください。

### I-A

#### 冬の花火はおもいで花火

僕たちにとってはめずらしく、軽いディスコ調。リズムにノって軽く歌ってください。花火といえば、やっぱり夏の風物詩——でも、冬にやってみるのも面白いんじゃないかな。

#### 漁り火

ずいぶんと気に入ってる曲です。ぜひ、シングルにしてみたかったのですが……。詞も曲もかなりうまくいってると思ってるのですが、じっくり聴いてみてください。

#### 夕暮れ時はさびしろう

N. S. Pを知らなくても、なぜかこの曲は知ってるというひが多いのです。女優の緑魔子さんが「一日のうちで一番悲しいのは、夕暮れ時で、お風呂屋さんの煙突から煙が出ていて、おとうふ屋さんのラップが流れてくるのを、一人で聞いている時だ」と書いていましたが、なるほどと、分る気がしました。北区の東十条に住んでいた頃、下町の空を染める悲しいほど赤い夕日は、いまでも忘れられません。そんな時、夕日の向う側から小走りでかけてくる女の子がいたら……。そして、どちらともなく手をさし出したらなんとステキだろう、なんて思いながら書いたものです。

#### 五月雨(さみだれ)

中村クンのボーカルがすごく光っています。静かな前半にくらべて後半がかなりもりあがる曲です。

#### 八月の空へ翔べ

LPのタイトルにもなってる曲で、リクエストも多くぜひシングルにしてほしい、という声もありますが、タ



イトルが『八月……』だけにそれを過ぎちゃったらどうなんだろう？

#### おもいで

ボソボソと歌う平賀クンのボーカルがかえって素朴な感じでいいと、ちょっぴり評判の曲です。

#### 北北東の風

『歌は世につれ』もそうなのですが、僕たちの数少ないメッセージ・ソングです。聴いてください。

### I-B

#### ゆうやけ

シングル盤のアレンジは、僕たちのものですが、今回は福井さんに手伝ってもらいました。ストリングスがとてもきれいに仕上がっています。

#### お茶の一服

フォーク・ギターのバランスがちょっとむずかしいかもしれませんが。でもいったん覚えてしまうと聴いてるひとにけっこううまく聴こえるといった得な曲です。

#### あなたこっちを振り向いて

めずらしく明るい感じの曲ですが、リズムのキメがこまかく、ちょっとむずかしいかもしれないナ。

#### 春をみつけた

ロスで録音した曲で、参加したミュージシャンは当時ウエスト・コーストで活躍していたひとたちばかりでしたが、最近の輸入レコードのクレジットを見ると彼らの名前がすごい勢いで出てくるのでビックリしています。

#### 八十八夜

リズムがやや独得なので戸惑わないように。

#### 雨は似合わない

思い出曲でLP『おいろなおし』から歌をとり直して、ミックス・ダウンし直したものです。

### 歌は世につれ

リズムの変り目に注意すれば、簡単に弾ける曲です。

### II-A

#### シャツのほころび涙のかけら

アレンジの時、少しテンポを速めてみました。前奏と後奏の部分がポイントです。

#### 白い椅子の陰

ハモリの部分が大切です。バランスをうまくとって。

#### 君と歩いてみたくて

ストリングスのアレンジが、キャンディーズの曲を担当していた矢吹さん。N.S.Pとキャンディーズのとり合わせなんて、ちょっと面白いでしょう。

#### 弥生つめたい風

3拍子の感じをうまくつかんでください。

#### あせ

3フィンガーの基本的なパターン。うまくいきますか。

#### 砂浜

僕たちには海の歌がほとんどないのです。やっぱり、内陸で育ったせいでしょうか。でも、泳ぐのは大好き。何回か海へ行った時のイメージをふくらませて作った曲。自分でも気に入っています。

#### さくら草(雪どけ水はつめたくて)

もりあがりが必要。何度も同じパターンが出てくるので、一度覚えてしまうとあとがラクです。

### II-B

#### 赤い糸の伝説

すでにおなじみの曲ですが、いまでもセリフが言えない。コンサートでもダメなのです。ゴメンナサイ。

#### 恋は水色涙色

これが、N.S.P?とよく言われる新しいパターンです。

#### 温度計の憂うつ

僕たちのアレンジがすごくうまくいっているのです。

#### 17才の詩(うた)



ファンの女の子が手紙の中に入れてくれた詞にメロディーをつけた曲です。こんなケースは初めてなのですが17才の時の気持ちが、僕にも思いあたるところがあっていいな—と思いました。

#### 誰かが落した悲しみを

コンサートでも人気のある曲です。リード・ボーカルは、平賀クン。

#### あの夜と同じように

シングル盤の候補にしていた曲です。マリンバのメロディーがいいでしょう?



#### さようなら

N.S.Pの思い出の曲です。レコード・デビューした曲が『さようなら』なんてちょっと皮肉な感じもしないではありません。でもこのLPとこのページの最後は『さようなら』—。



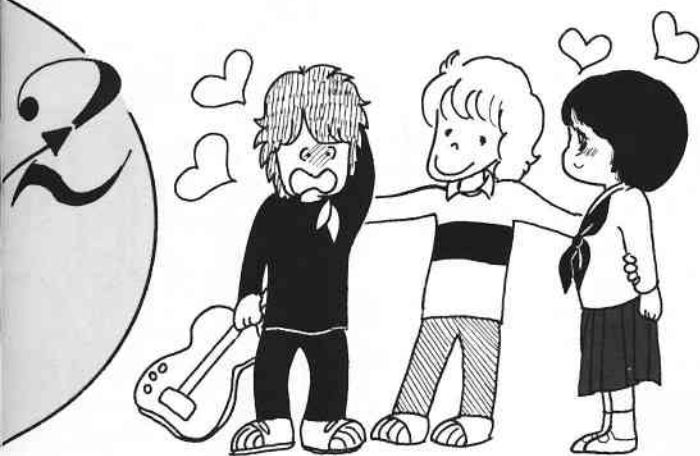
# N.S.P年表

●完全バイオグラフィー  
& ディスコグラフィー

年月	バイオグラフィー	まんがN.S.P物語
昭和 44 <sup>・4</sup>	<p>国立一の関工業高等専門学校入学。 平賀・中村→機械工学科 天野→電機工学科 中学時代、サウスポーのエースだった平賀は野球部に入部。大の野球狂で、ほんとは甲子園大会出場のチャンスがある普通高校へ行きたかったという。 天野、中村はお互いにテニス部で知り合う。4年時の公式大会で中村は個人優勝をかざる。天野は3年時で退部。一部では、クビになったというウワサがある。この時期から作詞に力が入ってくる。</p> <p>「ブラック・ファイブ」というロック中心のバンドを先輩2人と結成。ショッキング・ブルーの「ビーナス」タイガースやズーニーブーのナンバーが中心。先輩2人の卒業とともに自然崩壊。</p>	
45 <sup>・秋</sup>	<p>先輩に誘われて高専祭で3人が初めて一緒にステージに立つ。 それまでは、中村-平賀、中村-天野の組み合わせで、中村が2人の下宿を飛び回って練習していた。</p>	
46	<p>中村、「2時10分」というフォーク愛好家のグループをつくる。サイモンとガーファンクルに傾倒、その後、赤い鳥のサウンドに興味。知人の紹介で2人の女の子をクドキ落す。そのうちのひとりであったメイン・ボーカル担当の女性が現在の平賀夫人。中村のグループのメンバーは、男性3人、女性2人の計5人。「みんなバラバラに活動するよりは、広島フォーク村みたいな団体を作って一緒にやらないか」と他のフォークの好きな連中に呼びかけ「2時10分」が結成される。定期的なコンサートも開き、それぞれのグループもしたいに音楽的なレベルをアップさせ、「2時10分」は一の関の中心的な音楽団体になる。</p>	
47 <sup>・5</sup>	<p>現在のメンバーでN.S.P(当時は、ニュー・サディスティック・ピンクと呼んでいた)を結成。アマチュアとして市内でコンサートを企画、出演。 天野、ギター&amp;ボーカル。 中村、ドラム、フルート、ギター&amp;ボーカル。 平賀、エレクトリック・ベース&amp;ボーカル。 ビートルズ、C.C.R.などが主なレパートリー。当初はギンギンのロック・バンドだった。第5回ポプコン岩手県大会に出場、「あせ」が入賞。 中村が高専祭の時に録音しておいたテープを送ったのが入賞のキッカケとなる。</p>	
48 <sup>・3</sup> <sup>・5</sup>	<p>第5回ポプコン東北大会で優秀曲賞を受賞。 合歓本選会に出場。入賞、ニッポン放送賞を受ける。 当時、ほとんどお金を持っていないため友だちからギターを借り、しかもケースなどなして本選会へかけた。メンバーのうち、天野がとくにアガってしまい、かなり大きく出だしをまちがえるがそれ以上に演奏はもりあがった。</p>	
●6	<p>「さようなら／新青春」(キャニオン) でレコード・デビュー</p>	
●9	<p>「N.S.P・FIRST」 ファースト・アルバム発売。 当時高専の5年に在学中で、3人が上京してレコーディングする時間がとれなかった。そのため、コンサートで録音してあったテープを編集。ファースト・アルバムがライブ盤で発売になった理由である。</p>	
●8	<p>夏休み中に全国キャンペーン、ミニ・コンサートを30日間、ぶっ続けて行う。</p>	
●10	<p>2枚目のシングル「あせ／ちょうちょ」発売。</p>	
49 <sup>・3</sup>	<p>「ひとりだちのすすめ／君と歩いてみたくて」発売。 「N.S.P II」(2枚目のLP) 発売。</p>	



ディスコグラフィー



N.S.P.・FIRST  
(AV-9006)  
48年9月25日発売



さようなら/新青春  
(AV-20)  
48年6月25日発売



N.S.P. II  
(AV-9009)  
49年3月25日発売



あせ/ちようちよ  
(AV-24)  
48年10月10日発売



N.S.P. III ひとやすみ  
(AV-9010)  
49年9月25日発売



ひとりだちのすすめ/君と歩いてみたい (AV-27)  
49年3月10日発売



N.S.P. おいろなおし  
(AV-3019)  
50年2月10日発売



夕暮れ時はさびしそう/コンクリートの壁にはさまれて (AV-34)  
49年7月10日発売



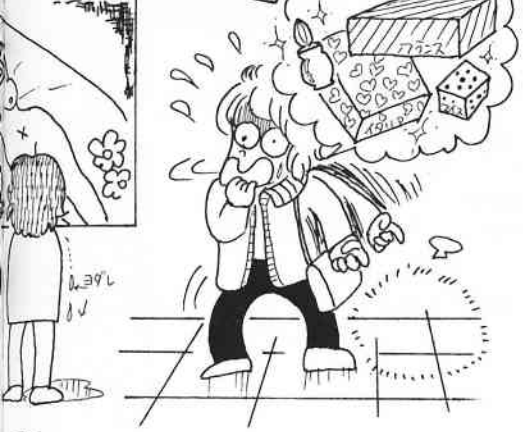
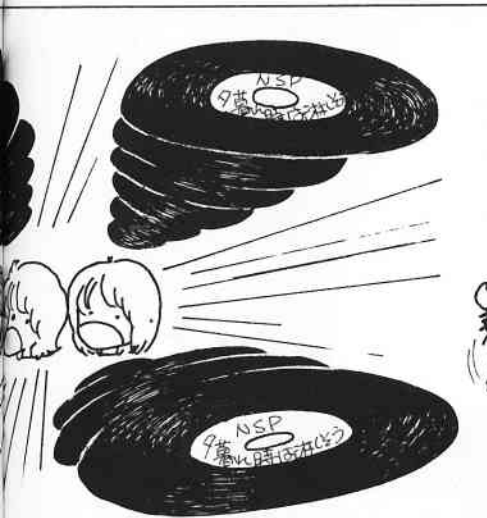
2年目の扉  
(AV-3029)  
50年8月10日発売 ★へ続く



雨は似合わない/なんて空だろう (AV-40)  
49年12月10日発売 ★へ続く

年月	バイオグラフィー	まんが N.S.P 物語
49	<p>●3 国立一の関工業高等専門学校卒業。 卒業するときも、プロになることは考えていなかった。だが、3人とも、就職試験に失敗。それじゃというので、1年くらいやってみるかといった軽い気持ちでスタート。年間、200本ものコンサートを消化。</p> <p>●7 「夕暮れ時はさびしそう／コンクリートの壁にはさまれて」発売。「売れなくても自分たちの信じられるものをやればいいんだ…」といったアマチュア意識の自己満足から脱出。このレコードが売れなかったら、自転車に乗って田舎に帰ろうと真剣に考える。この頃まではなかなか自信が持てず、田舎に帰ることばかり考えていた。だが、予想に反し?大ヒット。</p> <p>●9 N.S.Pファンクラブ発足。 「N.S.P IIIひとやすみ」発売。</p> <p>●12 「雨は似合わない／なんて空だろう」発売。</p>	
50	<p>●2 「N.S.P おいろなおし」発売。</p> <p>●5 初のアメリカ旅行。 ハリウッドのウエスタン・ユナイテッド・スタジオで約10日間、レコーディングを行う。ミュージシャンは、ドラムスにジェフ・ポルカロ、キーボードには、ボズ・スギヤグスのアレンジなどやっているデビッド・ペーチなど一流のミュージシャンが参加。</p> <p>●6 「お休みの風景／シャンテの街」発売。</p> <p>●8 「2年目の扉」発売。</p> <p>●10 大恋愛のすえ平賀結婚(21歳)。</p> <p>●11 「ゆうやけ／きみは地下鉄日比谷線」発売。</p> <p>●12 「N.S.P ライブ 僕らはごきげん」発売。</p>	
51	<p>●4 「赤い糸の伝説／みつからないように」発売。</p> <p>●5 「N.S.P 7 シャツのほころび、涙のかけら」発売。</p> <p>●8 「線香花火／あの娘をひとりじめ」発売。</p> <p>●10 天野初のソロアルバム「あまのしげる」発売。</p> <p>●10~52.3 天野、オールナイトニッポンのDJを担当。おしゃべりがあまり得意ではなく、そのうえ、終始アガリっぱなし。話がとぎれ「もう話すことがなくなったよ…」とあまりにもストレートにしゃべってしまったことは有名。</p> <p>●11 平賀家、長女誕生(未来ちゃん)。 中村、結婚。</p>	
52	<p>●2 「弥生つめたい風／ペンペン草」発売。</p> <p>●3 「明日によせて」発売。</p> <p>●6 「あなたこっちを振り向いて／白い椅子の陰」発売。</p> <p>●9 「北北東の風／星も見えない」発売。</p> <p>●11 「黄昏に背を向けて」発売。</p> <p>●12 LP 100万枚突破の記念旅行としてヨーロッパへ行く。 天野はすぐにホームシックになり一日も早く日本に帰りたいと思ってばかり。中村は家族や友人のおみやげにと香水などを買いあさったが帰りの空港ですべて盗まれる。とんだ災難だったが、忘れ物とそのドジさは、もはや定説になっているので、あまり同情されなかった。</p>	
53	<p>●3 「八十八夜／恋は水色涙色」発売。 「夜のヒットスタジオ」に出演。 八代亜紀がなかなか「夕暮れ時はさびしそう」を歌えず、天野親切に鼻の下を伸ばしながら教える。「気が付いたら本番になっていた」というふうによりリラックスしていたのだが、なぜか中村だけがキンチョーしていた。白のスーツできつそうに登場。出演者は、ピンクレディー、野口五郎、桜田淳子、森昌子、ほか。</p> <p>●7 「八月の空へ翔べ」発売。</p> <p>●10 「冬の花火はおもいて花火／男と女の余白」発売。</p> <p>●11 「青春のかけら達」発売。</p>	





黄昏に背を向けて (VF-9013)  
52年11月25日発売



八月の空へ翔べ (VX-9003)  
53年5月25日発売



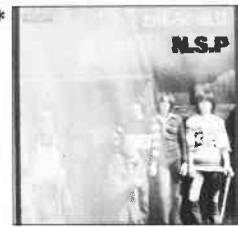
N.S.Pライブ「僕らはごきげん」(AV-9102)  
50年12月21日発売



青春のかけら達 (C40A006~7)  
53年11月21日発売



N.S.P 7 シャツのほころび、涙のかけら (AV-19003)  
50年5月25日発売



お休みの風景／シャンテの街 (AV-60)  
50年6月10日発売



あまのしげる (VF-9002)  
51年10月25日発売



ゆうやけ／きみは地下鉄日比谷線 (AV-72)  
50年11月25日発売



明日によせて (VF-9010)  
52年3月10日発売



赤い糸の伝説／みつからないように (AV-81)  
51年4月25日発売



線香花火／あの娘をひとりじめ (V-4)  
51年8月10日発売



弥生つめたい風／ペンペン草 (V-14)  
52年2月10日発売



あなたこっちを振り向いて／白い椅子の陰 (V-21)  
52年6月10日発売



北北東の風／星は見えない (V-23)  
52年9月25日発売



八十八夜／恋は水色涙色 (V-27)  
53年3月25日発売



冬の花火はおもいで花火／男と女の余白 (V-33)  
53年10月21日発売

# プロフィール



## 天野 滋 (あまの・しげる) G, Vo

S 28・5・5 一の関市生まれ。  
 国立一の関工業高等専門学校・電機工  
 学科S 49年卒。

- 好きな音楽……ロック
- 好きなアーティスト……ユーライア  
・ヒープ
- 趣味……ブラブラ散歩すること。  
 レコード収集。現在1,000  
 枚以上はある。おもに洋盤  
 が中心。とにかく暇さえあ  
 ればレコードを聴く。

身長 176cm	好きな食べ物…お
体重 56kg	もに和食党。あま
視力 1.2(右)	り好き嫌いはない
0.7(左)	がしつこい物はダ
足 25cm	メ。
25歳《牡牛座》	

『これからがN.S.P.にとって大事な  
 時です。とにかくいい歌を、新鮮な気持  
 ちで歌ってゆきたい』

## 中村貴之 (なかむら・たかゆき) G, Vo

S 28・6・12 宮古市生れ。  
 国立一の関工業高等専門学校・機械工  
 学科S 49年卒。

- 好きな音楽……メロディー・ライン  
 の美しいもの。肩のこら  
 ない、口ずさめるものが  
 いい。
- 好きなアーティスト……ディープ・  
 パープル、井上陽水、ポ  
 ール・マッカートニー、  
 エルトン・ジョンなど。
- 趣味……スポーツ、おしゃれをする  
 こと。

身長 169cm	好きな食べ物…すき
体重 55kg	やき、うなぎ
視力 1.5(左右)	嫌いな食べ物…油っ
足 24.5cm	こいピザバイ
25歳《双子座》	

『色々な体験を積んで音楽的な幅をも  
 っと広げたい…』

## 平賀和人 (ひらが・かずと) EB, Vo

S 29・1・6 花巻市生れ。  
 国立一の関工業高等専門学校・機械工  
 学科S 49年卒業。

- 好きな音楽……プリティッシュェ系統  
 の哀愁を帯びたもの。  
 ウェストコースト系では、  
 テイブ・メイソン、ドゥ  
 ー・ビー・ブラザーズ。
- 好きなアーティスト……ポール・マ  
 ッカートニー、レッド・  
 ツェッペリンなど。
- 趣味……レコードを聴く。スポーツ。

身長 169cm	好きな食べ物…おと
体重 51kg	うふ
視力 0.8(左右)	好きな色…茶系
足 25cm	好きな女優…若尾文
25歳《山羊座》	子

『これからはほんとうに音楽に没頭し  
 て、とことんやれるミュージシャンに  
 なりたい…』